

令和6年度第5回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：生き生き岡山の実現に向けて
- 2 日時：令和6年7月19日（金）15:45～17:05
- 3 場所：岡山大学共育共創コモンズ（岡山市北区津島中）
- 4 参加者：岡山大学の学生6名
- 5 知事挨拶

岡山県で生活して思うことや、今後の岡山県に期待することなどについて、学生の皆さんの若い視点からのご意見を伺いたい。

6 発言内容等

【自己紹介】

- ・東日本大震災の支援をきっかけに発足した被災地支援のサークルに所属している。平成30年7月豪雨災害以降、当サークルでは、公民館で防災ゲームや防災工作など県内の防災教育を重点においた活動を行っている。
- ・県北地域の教員不足解決を図る教育プログラムに参加している。将来は、地元の県北で教員になりたいが、現在学んでいる地域教育に関する研究を活かし、地域からの視点で教育に関わりたいとも考えている。
- ・まちづくりを研究するサークルに所属している。実際に地域の方に関わると、地域のニーズに沿った活動を行うことの難しさも感じるが、お互いが思い描く活動ができた際には、若者の力のすごさを感じている。
- ・まちづくりを研究するサークルに所属している。地域の方に名前を覚えていただけるほどの親密な交流ができており、少人数学級や地域コミュニティの後継者不足などの課題について、大学の講義よりリアルに学ぶことができている。
- ・ベトナムから留学のため来日。現在、博士課程で不妊症の原因と治療に関する研究を行っている。数年前に交換留学生として来日した際、日本人の優しさと先生方の熱心が印象深く、大学院の進学先として日本を選ぶきっかけとなった。
- ・環境やまちづくりに関する研究をしている。地元の茨城県で自宅が水害に遭ったことをきっかけに自然災害に興味を持った。平成30年7月豪雨災害の際に高梁市でボランティア活動を行ったことが縁で岡山大学に進学した。

【岡山で生活して思うこと】

- ・地域を盛り上げようという県民の機運が非常に高い。防災講座で関わる方々も「自分たちの地域は自分たちの力で守る」という思いで取り組んでいる方が多い。うらじゃのボランティアに参加した際も、祭りを盛り上げる熱量の大きさを感じた。
- ・プロスポーツチームが多く、1つのチームに限らず様々なチームと触れ合える機会がある。
- ・地震が少なく、安心して生活できる。空港や新幹線など交通の便が充実している。
- ・教育施設や文化施設が少ない。小中学生が学校以外で体験や学習ができる場が充実すれば良いと思う。
- ・県が進める夢育について、県南の方がしっかりとプログラムを立てて進めているように感じる。
- ・山間部の小学校から、生徒数の多い中学校に進学すると、急激な変化に対応できず自分の殻にこもってしまう生徒がいるので、彼らへの支援が必要だと感じている。
- ・防災講座に参加される方は熱心に話を聞いてくれるが、岡山県は晴れの国というイメージが強く、大災害を身近なものとして感じていない方が多い気がする。干拓地が多い岡山県は液状化が心配されるが、南海トラフ地震も他人事のようなものである。
- ・地元の高知県に比べ、岡山県の方は防災意識が足りないと感じている。防災イベントの際、「どうして役所は地域全員分の非常食を用意できなのか」といった公助に頼る話をされる方がいた。もっと自助や共助を促進する取組が必要だと思う。
- ・行政手続きの説明が全て日本語だったため苦勞した。留学や就労に限らず、日本に移住したいと考えている外国人は多い。外国人への分かりやすい説明が必要である。
- ・大阪・関西万博への岡山県民の熱気が足りないと感じる。来日する世界各国の方に岡山にも来てもらえるチャンスを活かすべきだ。
- ・車の運転で、ウインカーを出さないなど交通マナーが悪い。片側一車線の追い越し禁止区間で追い越しをされた経験があるが、大変怖い思いをした。

7 知事まとめ

- ・今取り組まれている活動を、ぜひこれからも頑張ってもらいたい。
- ・県としても、皆さんの意見を参考に、様々な取組を積極的に進めてまいりたい。